

活動報告

福岡県からの要望を国に伝えるため、7月29日、自民党本部に小野寺五典政調会長を訪ねました。メンバーは服部誠太郎知事、蔵内勇夫県議会議長、それに自民党県連政調会長である私の3人です。



要望は主に3点です。

(1) 米国関税措置への対応

米国に追加関税及び相互関税の見直しを求める

(2) ワンヘルスの推進

「アジア新興・人獣共通感染症センター(仮称)」の九州への早期設置

(3) グリーン成長プロジェクトの推進

「福岡半導体リスクリングセンター」、「福岡超集積半導体ソリューションセンター(仮称)」等への財政支援

このうち米国とは粘り強く交渉する、とのことでした。



月刊えぐち
2025夏
vol.7



福岡県議会議員 江口よしあき
自民党福岡県議団

発行／江口よしあき事務所
〒830-0062 久留米市荒木町白口
2324-3 古賀第2ビル103号
TEL 0942-26-3324 FAX -26-3382
Mail:office@eguchi.ne.jp



江口よしあきプロフィール

1974年 久留米市荒木町に生まれる
1980年 久留米市立荒木保育園を卒園
1986年 久留米市立荒木小学校を卒業
1989年 福岡教育大学附属久留米中学校を卒業
1992年 松尾学園弘学館高等学校を卒業
1997年 早稲田大学社会科学部を卒業
同年 九州朝日放送(KBC)に入社
2003年 久留米市議会議員に初当選(連続2期)
2011年 福岡県議会議員に初当選(現在4期目)
2024年 第87代福岡県議会副議長
2025年 自由民主党福岡県連 政務調査会長

■令和7年・福岡県議会日程(予定)

9月定例会 9月8日(月)～10月14日(火)

■傍聴について

県議会の会議は公開を原則としていますので、会議中はいつでも傍聴でき、傍聴を希望される方に傍聴券を交付しています。
最新及び詳細は福岡県議会ホームページで。

月刊えぐち VOL. 7

2025年

農産物の適正価格の形成

日本人の生活を直撃したコメの価格は備蓄米の放出により、落ち着きを見せ始めています。しかし、抜本的な解決のためには国民の理解のもと「コメの適正価格」を決める必要があります。高過ぎれば消費者の、安すぎれば生産者のコメ離れが起きてしまいます。国は、減反から増産へ舵を切りました。当然、そこには、生産者への生活保障という考え方もあります。

コメの販売価格の推移(円/5kg、税込)

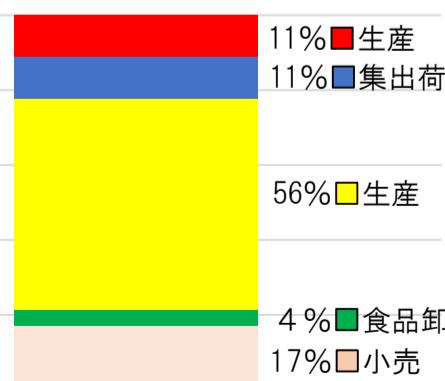


肥料の高騰や高価な農業機械などでも農家の経営を直撃します。このため福岡県では、賃上げ実現のため商工分野での「価格転嫁」を推進しています。

一方、国は今年6月食料システム法を成立させ農家ら売り手と買い手に、価格交渉に誠実に取り組むことを課しました。

さらに農家の生産費用などを積算した「コスト指標」を策定することとしました。この指標は農家の価格転嫁の根拠となります。「コスト指標」の対象品目は、コメ、野菜、飲用牛乳、豆腐・納豆。野菜は貯蔵性のあるタマネギやジャガイモ、カットなどの加工需要があるキャベツも指定を検討しているとのことです。

段階別コスト比率(%)



但し、農業規模による生産コストの違いや、価格の乱高下が激しい野菜が、コスト指標に適するのかの議論もあります。

福岡県のワンヘルスの取り組み①

今年の梅雨は平年より早く明け、最高気温が35度C以上の猛暑日も連日です。

また、住宅地にクマが出没し人への被害も発生しています。

気候変動や自然環境の変化への取り組みも、福岡県の推進するワンヘルスです。ワンヘルスとは、「人と動物の健康、環境の健全性」を目指した考えです。



6つの基本方針 その4 人と動物の共生社会づくり

ワンヘルスの取り組みのすそ野は広く逆にそこがこの運動を分かりにくくしているのかもしれません。出発点は「人獣共通感染症対策」であることは言うまでもありません。一部マスコミの偏った報道にも毅然として取り組んでいます。

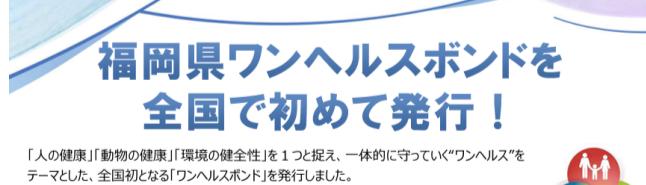
福岡県ではワンヘルスへの県民の理解を進めるため、毎年、研究発表会である国際フォーラムを開催しています。今年は、ワンヘルスの実践活動として、県立山門高校の高校生が「ウナギの生態系保全の取り組み」を研究発表しました。



このフォーラムが目指す取り組みとして2028年開催のワンヘルスの世界規模の学会「ワールド・ワンヘルス・コンгрレス」の福岡誘致が挙げられます。私は福岡県が世界に向けて発信しているワンヘルスの取り組みは、福岡県の知名度アップはもちろんですが、「地方から日本を変える」というユニークな取り組みであると思います。

福岡県のワンヘルスの取り組み②

福岡県は全国で初めて「ワンヘルス」の名が付いたESG債を発行しました。ESG(Environment=環境・Social=社会・Governance=統制)債は、環境課題や社会的課題の解決に向けた事業への資金を調達する債券のことです。グリーンボンド(環境債)、ソーシャルボンド(社会貢献債)、サステナビリティボンド(グリーンとソーシャルの両方の要素を含む債券)などの分類があります。



「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を1つ捉え、一体的に守っていく「ワンヘルス」をテーマとした、全国初となる「ワンヘルスボンド」を発行しました。

多くの投資家の皆様からご賛同いただき、発行額50億円を上回る応募をいただきました。

利率については、一般の地方債と比べ0.02%低い1.171%の利率で発行されました。

ワンヘルスボンドにより得られた資金は、ワンヘルスセンターの整備などに充当させていただきます。

長い間続ければならないワンヘルスの取組を進めてまいります。

福岡県ワンヘルスボンドの概要	
発行日	令和7年5月30日
債券の種類	市場公募債(機関投資家向け)
ESG債種別	サステナビリティボンド
年限	5年
発行額	50億円
利率	1.171% (一般の地方債と比べ0.02%低い水準) ※5年間で500万円の利子削減効果
適合性評価	第三者機関である株式会社格付投資情報センター(R&I)から、以下の原則・ガイドラインへの適合性について評価を取得 ・ ICMA: グリーンボンド原則2021、ソーシャルボンド原則2023、サステナビリティボンドガイドライン2021 ・ 環境省: グリーンボンドガイドライン2024年版 ・ 金融庁: ソーシャルボンドガイドライン(2021年10月)

その資金は、ワンヘルスセンターの整備事業などに充てられます。

今回は50億円の発行予定額に対し、102億円の応募があり、一般の地方債と比べ0.02%低い1.171%の利率で発行されました。低い利率によって、利払い額として500万円の削減につながりました。

このことは、機関投資家に福岡県が推進するワンヘルスの理念と取り組みを理解して頂く上でも絶好の機会でした。



ワンヘルスセンターのイメージ図(みやま市)

次年度以降の発行については、投資家へのワンヘルスの普及啓発効果も踏まえ
・ 充当可能なハード整備事業の規模
・ 投資家の需要や金利面での優位性
などを見極めながら、検討していきます。

次世代のため、地道に活動を続け、普及していきたいと思います。